

アミパネルを市営住宅の 壁や屋根に使用

相澤銘木

相澤銘木(秋田県能代市、網幸太社長)は、アミパネルという耐力面材を開発、今回、能代市営松山町住宅の屋根や壁にこのアミパネルが使用され、話題を集めている。

アミパネルは、耐力壁でありながら通気層を兼ねる構造になっている。そのため通気胴縁にかかわる作業などを軽減することができ、耐力壁として十分な強度もあるため、筋違が不要になる場合もあり、国土交通大臣認定の壁倍率は、長さ2900ミリが4・6倍、2700ミリが4・0倍。また、アミパネルは大きさの割には非常に軽いのが特徴で、重量は1枚当たり14〜17キログラム程度。

隙間が空いているため、風に煽られにくい設計になっており、実際の作業現場では、非



タルキの上にタイベックを張り、その上にアミパネルを張る

常に作業しやすく作業時間も大幅に短縮されている。

今回、アミパネルは屋根に使用されたことが評価された。野地板の下にアミパネルを張

ることを考えたのは、「家づくり西方設計」の西方里見代表で、タルキの下にタイベックを張り、その上にアミパネルを屋根全面に張った。市営住宅を設計した西方氏は「秋田杉のアミパネルは、地場産材活用や間伐材利用にもつながる。仕様がえ守れば日本中の材木屋に制作支給できるのではないか」と話す。

アミパネルは相澤銘木が特許を持っており、

当分は制作支給が基本という。

同パネルは、首都圏などで開催される展示会などで紹介されており、今では秋田県の主要製品になってきている。

最近、秋田市の豊店が新築した壁に同パネルを使ったが、通気性が良いうえ作業時間が短く筋違も不要で納期が早かったようだ。また、長期優良住宅に認定されるためには通気層を設ける必要があるが、アミパネルは、通気層とモルタル地材、耐力壁の3点を備えているため、モルタルを使用した住宅で長期優良

良住宅に認定されるための施工手間を減らすことができる。

アミパネルの施工手順は、構造躯体に防湿シートを張り、その上にアミパネルを張り、その上にもう一度防湿シートを張り、ラス網を張ってからモルタルで施工する。

アミパネルを販売しているコバリン秋田営業所の関係者は「アミパネルは県産材の需要拡大に貢献するパネルで、引き合いも徐々に出てきている」と話す。秋田杉の新品として各方面から注目を集めている。